

能登半島の地震災害に関する科研・特別研究促進費(突発災害調査)の研究集会に出席、 発表しました(金沢大学、石川県立大学との連携)(2024/3/25~26)

テーマ: 災害科学、令和6年能登半島地震、震災、過疎高齢化、復旧復興

会場: 石川県文教会館(金沢市)

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K17482/>
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2023/1420210_00001.htm
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2023/1420210_00003.htm

令和5年奥能登地震以降、当該地域とその周辺の地震現象・地震災害に関する文部科学省科学研究費助成事業(特別研究促進費)「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」(23K17482)(代表者: 平松良浩教授・金沢大学理工研究域地球社会基盤学系)が、珠洲市等の協力のもと始動しています。

令和5年度は19機関から41名が参画して始まり、令和6年能登半島地震を受けて33機関69名に拡大して観測、調査分析が進められています。当研究所からは、奥能登地震の発災以来、佐々木大輔准教授、原裕太助教(共に2030国際防災アジェンダ推進オフィス)が「テーマ10: 社会的脆弱性による災害時の地域への影響調査」(社会科学チーム)の分担者として参画しています(チーム長: 青木賢人准教授・金沢大学人間社会研究域地域創造学系)。

2024年3月25日(月)~26日(火)、金沢市の石川県文教会館において、2日間にわたって当該プロジェクトの研究集会が開かれ、佐々木准教授、原助教をはじめ各分担者が集まったほか、北陸各県の防災・危機管理の担当者、気象台職員もオンラインで参加しました。冒頭、令和6年能登半島地震で犠牲になられた方々に対し、黙祷を捧げました。

研究集会2日目には原助教が、金沢大学、石川県立大学の地理学、財政学、農村計画学・農業経済経営学の研究者らと進めてきた共同研究の成果の一部について発表しました。現地では研究プロジェクト間の連携・調整不足による被災者・被災地の過度な負担、疲弊、混乱が懸念されています。当発表では以上を防ぐ必要性和方法論、東日本大震災の教訓、能登半島特有のリスクについて話題提供しました。当議論には社会科学チームの研究者と、石川県立大学災害対応プロジェクト「農業・農村コミュニティ復興支援チーム」代表者らが参画しています。

※下線は当研究所所属の教員

■社会科学チームからの話題提供

- ・ 青木賢人・林 紀代美(金沢大学): 令和6年能登半島地震発生以前の珠洲市民の防災意識について一特に津波に注目して一
- ・ 武田公子(金沢大学): 避難の多様化と広域化一各避難形態の実情と問題一
- ・ 原 裕太・武田公子・山下良平(石川県立大学)・齋藤 玲(認知科学研究分野): 復旧復興期における「合成の誤謬」リスクを踏まえた人文社会系・計画系諸科学の連携の必要性和試み

■プログラム

3月25日(月)

14:00~ 黙祷、開会挨拶・趣旨説明 平松良浩教授

14:10~18:20 研究発表(10件)(登壇者: 東京大学、京都大学、筑波大学、本学理学研究科)

19:15~ 懇親会

3月26日(火)

9:00~12:00 研究発表(6件)(登壇者: 京都大学、富山大学、滋賀県立大学)

13:00~16:40 研究発表(9件)(登壇者: 当研究所、金沢大学、新潟大学、長岡技術科学大学、北陸先端科学技術大学院大学、気象庁気象研究所)

16:40~16:45 閉会挨拶 平松良浩教授

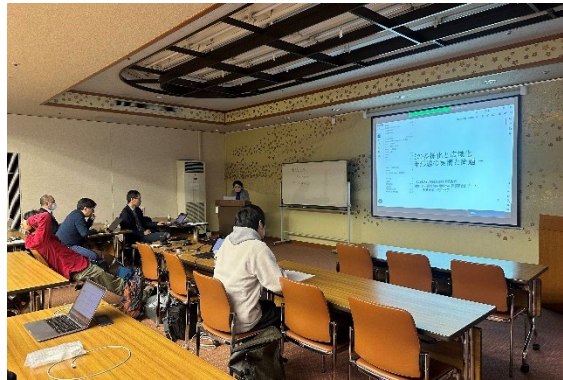
文責: 原 裕太(2030国際防災アジェンダ推進オフィス)
(次頁へつづく)



発表する原助教



連携する社会科学チームの発表1
(青木准教授 (金沢大学))



連携する社会科学チームの発表2
(武田教授 (金沢大学))